



シリーズ豊前市 SDGs とは？ “誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

目標4「質の高い教育をみんなに」

教育によって世界が抱える
数多くの課題を解決するために

4 QUALITY EDUCATION



今、世界中には教育を十分に受けることのできない子どもたちが約 5,900 万人もいると言われています。小さい頃からの労働強要、紛争などを原因に学校に行けない子どもの多くは字を習うことができず、読み書きができないまま大人になる人は世界で 7 億 8,000 万人にのぼると言われています。例えば薬の説明が読めなければ誤って薬を飲んでしまう、「地雷注意」の看板が読めなければ命を落とす人がいるということもあります。また、収入を得るために必要な知識、技術、能力を身に付けることができなければ、安定した収入を得られる仕事に就くことができない可能性が高くなります。日本で暮らし、育ってきたわたしたちは小学校から中学校までの義務教育を受け、基礎的なことを学んでいますが、世界にはそうではない人たちがたくさんいるのです。目標 4「質の高い教育をみんなに」は、そうした教育が受けられない人をなくし、生涯にわたって学べる機会を促すことを記した目標です。

4 質の高い教育をみんなに



豊前市の取組 | 子ども家庭総合支援拠点を設置

今の日本の教育課題としては、いじめなどによる不登校生徒の増加、子どもの学力の低下、学校におけるインターネット環境の整備などの教育情報化の遅れなどがあります。中でも不登校生徒は近年非常に増えていて、2019 年は 5.3 万人もいました。これは 30 年前の 1989 年から比べると約 5 倍も増えていることとなります。不登校は日本の教育としても非常に大きな課題なのです。

これら日本の教育課題や子どもたちの現状を踏まえ、豊前市では 2022 年 4 月から新たに「子ども家庭総合支援拠点」を設置しました。この拠点は、子どもの健やかな成長をサポートする場所として、子ども家庭支援員を中心に、0 歳から 18 歳までのすべての子どもとその家庭、また妊産婦を対象に様々な相談に対応し、関係機関と連携を図りながら、実情に応じた適切な支援に繋げていく拠点です。困ったとき、話したいとき、ちょっと聞いてみたいときは、お気軽にご利用ください。



お問合せは 豊前市福祉課子ども相談係 ☎82-8245

SDGs の主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs

一人一人ができる取組事例

目標 4「質の高い教育をみんなに」は教育が受けられない人をなくし、生涯にわたって学べる機会を促すことが目標です。今回ご紹介する取組以外にも、**個人でできる取組はたくさんあります。まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組みが紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。**

<わたしたちにもできること>

- ① 学習支援的ボランティアなどに参加すること
- ② 本や映画、インターネットなどで世界や日本の教育の現状を知ること
- ③ 教育支援の活動をする団体に募金をする
- ④ 親も子どもも学ぶ機会があったら積極的に参加する機会を増やすこと

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)